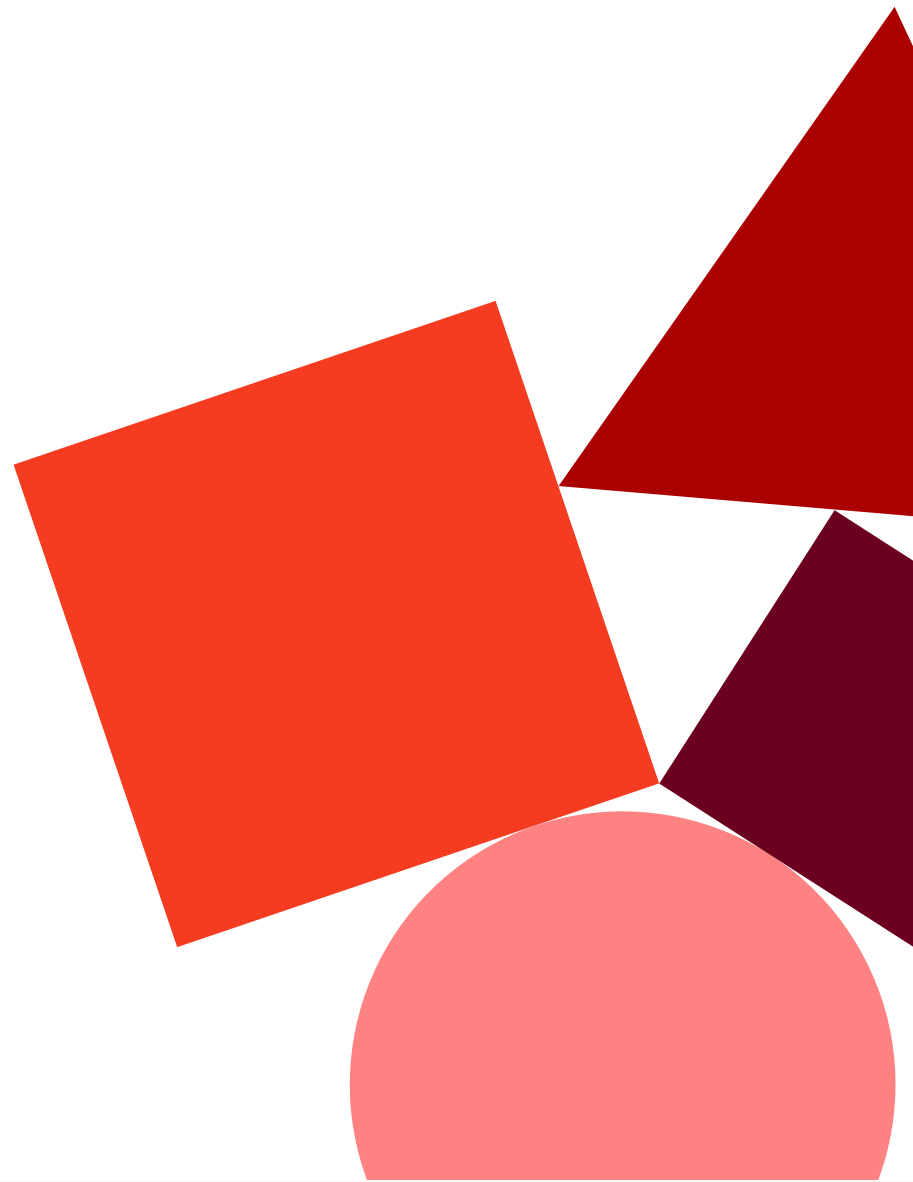
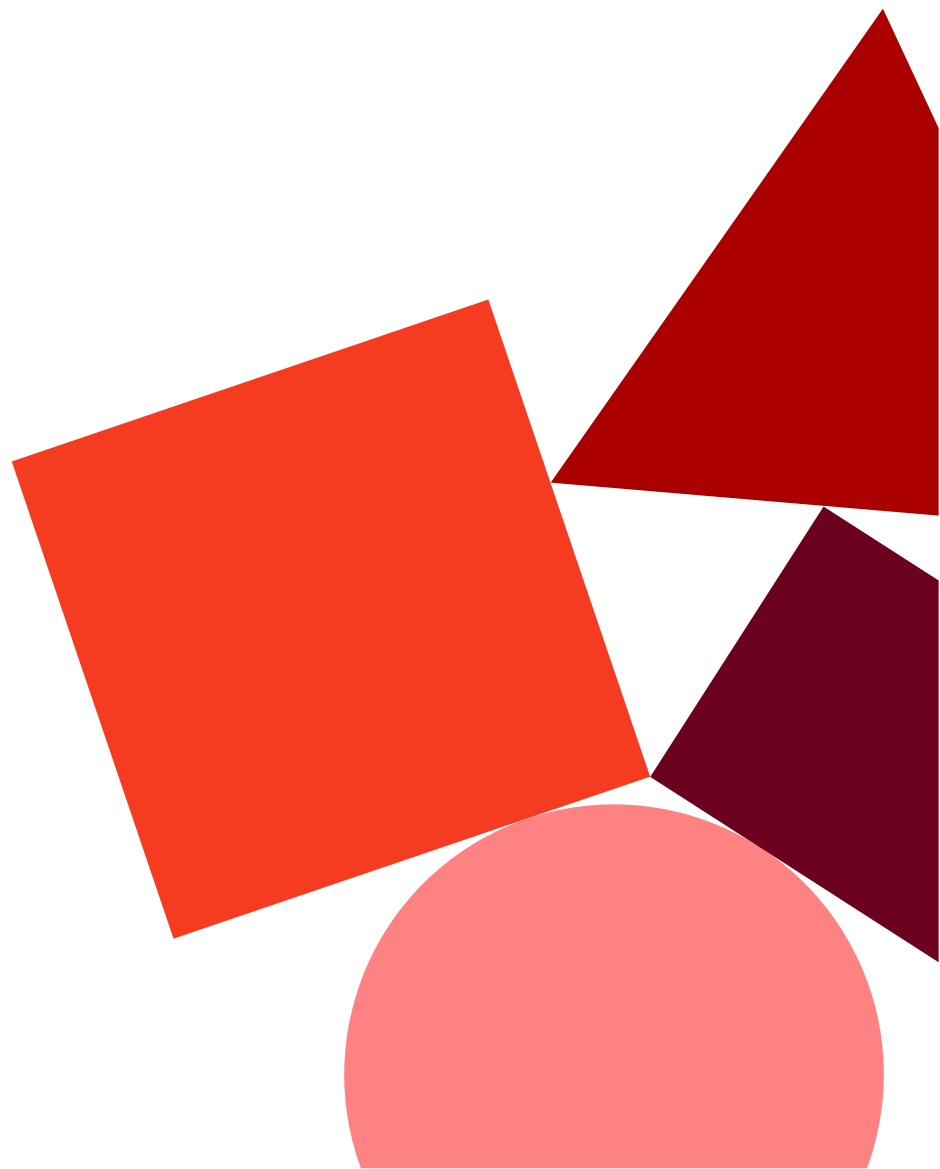


【自動処理活用】 複数レコードを 1レコードに集約



目次

1. はじめに
2. 自動処理の全体図
3. 設定STEP(1／3)
4. 設定STEP(2／3)
5. 設定STEP(3／3)



1.はじめに

「楽楽販売」では、自動処理を利用して、レコードをまとめることが可能です。

本資料では、

A-DBでは、複数レコードで管理されている情報を自動処理を利用し、

B-DBでは、1レコードにまとめる方法をご紹介します。

A-DB

受注No	顧客名	案件名	受注金額	受注月
0001	A社	WW案件	60,000	2022年3月
0002	A社	XX案件	70,000	2022年3月

(1) A社に対するレコードが複数作成されている。

(2) A-DBからB-DBにデータ連携する自動処理を実行する。

B-DB

請求No	顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
0001	A社	2022年3月	130,000	WW案件	60,000
				XX案件	70,000

(3) A社に対するレコードを1レコードにまとめられる。

1.はじめに

各部門の前提

営業部門：受注伝票の単位で受注DBにデータを作成したい。

経理部門：請求書を発行する単位で請求DBにデータを作成したい。

実施できること

受注DBでは、顧客が「A社」・受注月が「2022年3月」という内容で作成されている複数のレコードを、

請求DBでは、顧客が「A社」・請求月(受注月)が「2022年3月」という1レコードにまとめることが自動処理で実現できます。

営業部門:受注DB

受注No	顧客名	案件名	受注金額	受注月
0001	A社	WW案件	60,000	2022年3月
0002	A社	XX案件	70,000	2022年3月

経理部門:請求DB

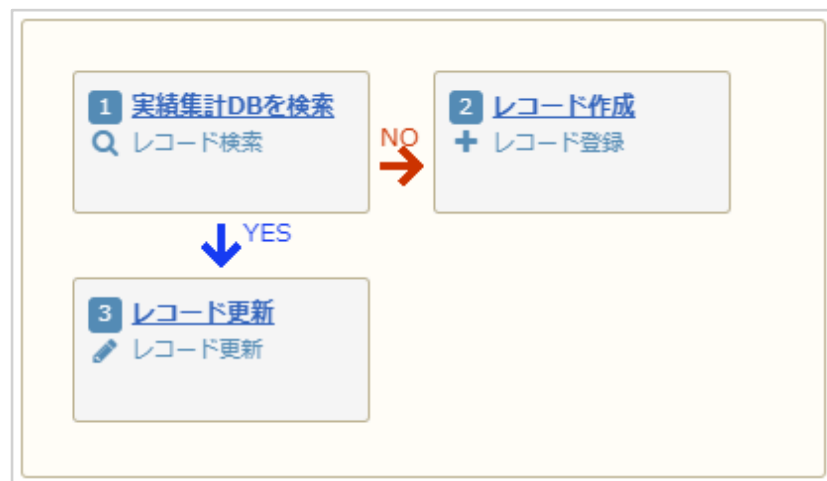
請求No	顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
0001	A社	2022年3月	130,000	WW案件	60,000
				XX案件	70,000

受注No:0001のレコードがA社に対する
2022年3月の請求内容に含まれている。

受注No:0002のレコードがA社に対する
2022年3月の請求内容に含まれている。

2.自動処理の全体図

自動処理の全体図



各自動処理パーツの役割

1. 実績集計DBを検索(レコード検索パーツ)

請求DBに自動処理を実行する受注DBのレコードの
まとめる先があるかを検索します。

2. レコード作成(レコード登録パーツ)

1.の結果、請求DBにレコードのまとめ先が存在しない場合、
自動処理を実行する受注DBのレコード内容を元にレコードを
作成します。

3. レコード登録パーツ(レコード更新パーツ)

1.の結果、請求DBにレコードのまとめ先が存在する場合、
自動処理を実行する受注DBのレコード内容を既に作成されて
いるレコードの明細に追加します。

3.設定STEP(1／3)

レコード検索パーツでは、レコードをまとめる条件で実施し、まとめ先となるレコードがあるかを確認します。

レコード検索パーツが実施していること

・検索内容

レコードをまとめる条件である「顧客名」と「請求月」が一致するレコードが請求DBに存在するかを検索します。

・顧客名が「A社」かつ請求月が「2022年3月」を検索する場合
請求DBのデータ内容が下記である場合、顧客名が「A社」かつ請求月が「2022年3月」のレコードが存在しないため、検索結果は「No」(まとめ先のレコードが存在しない)となります。

・請求DBのデータ内容例

顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
B社	2022年3月	10,000	案件1	10,000
B社	2022年2月	50,000	案件2	20,000
			案件3	30,000
B社	2022年2月	90,000	案件4	40,000
			案件5	50,000

設定内容

検索内容を実現するために設定内容は下記です。

条件1、条件2の両方を満たす必要があるため、「AND条件」を選択します。

対象レコード 請求DB

検索結果 ☐ 検索結果を明細単位で表示

検索結果の並び順: 1 請求ID の

検索結果の並び順: 2 の

検索結果の並び順: 3 の

1件まで絞り込み ☒ 複数件存在した場合に1件表示

AND条件 (すべての条件に当てはまる) OR条件 (いずれかの条件に当てはまる)

条件1
請求DBにある「顧客名」の項目の値が、自動処理を実行する受注DBのレコードの「顧客名」の値と等しい。

条件2
請求DBにある「請求月」の項目の値が、自動処理を実行する受注DBのレコードの「受注月」の値と等しい。

4.設定STEP(2/3)

レコード登録パーツでは、請求DBに新しいレコードを作成します。

レコード登録パーツが実施していること

請求DBに新しい「顧客名×請求月」のレコードを作成します。
今回の場合、顧客名が「A社」かつ請求月が「2022年3月」となるレコードが請求DBに作成します。

・レコード登録パーツ実施後のデータ内容

顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
B社	2022年3月	10,000	案件1	10,000
B社	2022年2月	50,000	案件2	20,000
			案件3	30,000
B社	2022年2月	90,000	案件4	40,000
			案件5	50,000
A社	2022年3月	60,000	WW案件	60,000

設定STEP(1/3)では作成されていなかった
「顧客名:A社」かつ「請求月:2022年3月」の
レコードを作成します。

設定内容

レコード登録パーツでは、請求内容の共通の内容をヘッダ項目に、個別の内容を明細項目に登録します。

The screenshot shows a form for registering records. It is divided into two main sections: 'ヘッダ項目' (Header Items) and '明細項目(明細)' (Detail Items (Details)).

ヘッダ項目 (Header Items):

- ステータス:** (直接指定) [v] 未処理
- 請求ID *:** ☒ 連番部分は自動的に採番する
自動で値が入ります
[選択レコード] [受注DB] [v]
- 月額契約ID:** [選択レコード] [受注DB] [v] : 契約管理ID [選択]
- 顧客ID:** [選択レコード] [受注DB] [v] : 顧客ID [選択]
- 顧客名 ☐ 連結:** [選択レコード] [受注DB] [v] : 顧客名 [選択]
- 請求月 ☐ 計算:** [選択レコード] [受注DB] [v] : 受注月 [選択]

明細項目(明細) (Detail Items (Details)):

- サービスID:** [選択レコード] [受注DB] [v] :
- 品目 ☐ 連結:** [選択レコード] [受注DB] [v] : 品名[複]
- 単価 ☐ 計算:** [選択レコード] [受注DB] [v] : 単価[複]
- 請求区分 ☐ 連結:** [選択レコード] [受注DB] [v] : 区分[複] [選択]

今回の場合、
「顧客名」や「請求月」
は**ヘッダ項目**に
登録します。

今回の場合、
「案件名」や「受注金
額」は**明細項目**に
登録します。

5.設定STEP(3／3)

レコード更新パーツでは、まとめ先となるレコードが存在する場合、明細項目に新しい情報を追加します。

レコード更新パーツが実施していること

請求DBに既にまとめ先となるレコード(顧客名が「A社」かつ請求月が「2022年3月」)が存在するため、明細項目に「A社」の「2022年3月」が請求月となる案件情報を追加します。

・レコード更新パーツ実施後のデータ内容

顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
B社	2022年3月	10,000	案件1	10,000
B社	2022年2月	50,000	案件2	20,000
			案件3	30,000
B社	2022年2月	90,000	案件4	40,000
			案件5	50,000
A社	2022年3月	60,000	WW案件	60,000
			XX案件	70,000

設定STEP(2／3)で新規作成したレコード

設定STEP(2／3)では作成されていなかった明細を追加します。

設定内容

レコード更新パーツでは、明細項目の更新のみ実施するため、「新しい明細行を末尾に追加」を選択し、明細項目に個別の内容を更新します。

今回の場合、明細の追加を実施するための、ヘッダ項目の内容は更新しません。

今回の場合、明細に案件名や受注金額が増えるような設定を行います。